

日勤救急隊設置など 永和地区の命を守れ

吉川 三津子議員



広域化以外の手法も検討する
市長



▲永和地区の救急車到着時間

問 永和地区の子育て中の方から「救急車がちつとも来なくて不安だ」という声をもらっている。いくつもの踏切を越えねばならない。十四山に海部地方消防指令センターができたのに、なぜ蟹江消防署から来ないのかとの声だ。

救急車の到着所要時間は、全国平均が8.9分、県平均が7.5分。愛西市平均は9.3分で県下ワースト3だ。町別では、善

答 協議されていない。大新田町14.6分、大野町14.2分、鰐江町13.3分と到着最長時間は20分を超えており、永和地区が市の平均を押し上げている(左図)。

平成25年の消防指令センター運用後、永和地区の救急車問題は協議されてこなかったのか。

答 協議されていない。

問 諸桑町は、津島市と協議して協定を結んでいるが、蟹江町とは協議していないのか。

答 検討はなかった。

問 市長としても、協議してこなかったのか。

答 海部地域広域化で、時間短縮できると考え、お願いしているが、時間がかかっている状況だ。

問 広域化の審議は、平成20年からされている。頑張っていくと答弁されても信用はできない。愛西市がリードし、いつまでに実現するのか。

答 明言はできない。

答 広域化以外の手法も検討し、実現できる部分はすべきだ。

高齢者世帯への
支援の充実を

問 高齢者のみの世帯が増えている。

稲沢市のおでかけタクシー、移動スパーへの取り組みを提案をしてきたが、どうだったか。

答 タクシーについては、引き続き確認していく。また、移動スパーについては、ヨシヅヤと高齢者支援を含んだ包括協定を結んでいるので、進めていきたい。

問 命の問題だ。①永和コミュニティセンターに、日勤救急隊を設置する
②蟹江町と委託契約を結ぶ
③JR踏切の下をくぐる二方通行道路を整備するなどの手法も並行して取り組むべきでは。